



名古屋都市センター研究成果

平成24年度の研究の概要を紹介します。
なお研究報告書は名古屋都市センターのまちづくりライブラリーで、
概要版はホームページでご覧いただけます。

<http://www.nui.or.jp>

市民研究

研究
テーマ

若者・バカ者・よそ者による地域活性化

～若者たちが街を継承していくための
架け橋となるシェア住居設立に向けた挑戦～

市民研究員 水落 勝彦・三浦 直也・上田 雅人

後継者不在や店主の高齢化による商店街の空き店舗問題について、夢をもった若者たちが共同生活するシェア住居「ユメビトハウス」を商店街の空き店舗を活用してつくり、商店街と若者たちの架け橋となることでこの問題を解決しようと考え、本研究を始めました。実際に商店街の空き店舗を改装してシェア住居を始めるためのプロセスや乗り越えるべき障害、商店街でのアンケート調査やインタビューを通して見えてきた空き店舗問題の背景にある課題、若者たちと商店街の架け橋となり地域課題を解決するためのユメビトハウスのモデルづくりとしてワークショップを行い、その内容について報告をさせていただくことにしました。



街の魅力や課題を調査する街歩き



シェア住居のモデルづくりワークショップ

研究の概要は、以下のとおりです。

第1章 調査概要 当初考えていたソーシャルキャピタルを軸にした調査研究から実際に商店街空き店舗をシェア住居にするためのプロセスやそのモデルづくりへと研究計画が変わってきた経緯やその思いについて説明しました。

第2章 商店街の空き店舗活用としての「シェア住居」の可能性 商店街の空き店舗をシェア住居と変えるためのプロセスや乗り越えるべき課題、その意義について共有しました。

第3章 商店街の空き店舗問題が抱える課題 ソーシャルキャピタル調査を通して見えてきた商店街の抱える課題、商店街空き店舗の貸し渋りと思える現象の背景についてお伝えすることになりました。

第4章 商店街での活動 調査研究期間での商店街での活動や商店街空き店舗を活用したシェア住居「ユメビトハウス」のモデルづくりのためのワークショップについて詳細に報告しました。

第5章 ユメビトハウス設立に向けた活動とそこから見えてきたこと 第4章のワークショップなどを基に考えられた「ユメビトハウス」のモデルについて提案し、今後の展望についてもお伝えすることになりました。

一般研究

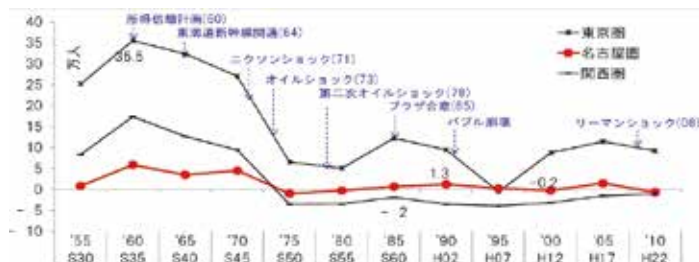
研究
テーマ

名古屋の都心回帰—居住人口データを中心に

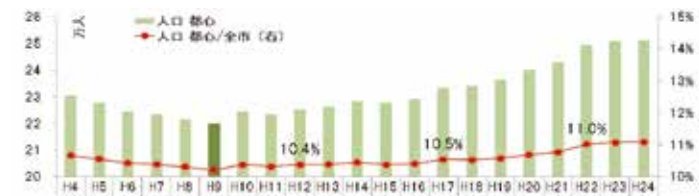
元名古屋都市センター 調査課 研究主査 後藤 佳絵

戦後日本の急速な郊外化は、都心人口の流出を招いたが、1995年頃から「都心回帰」の現象が見られるようになった。

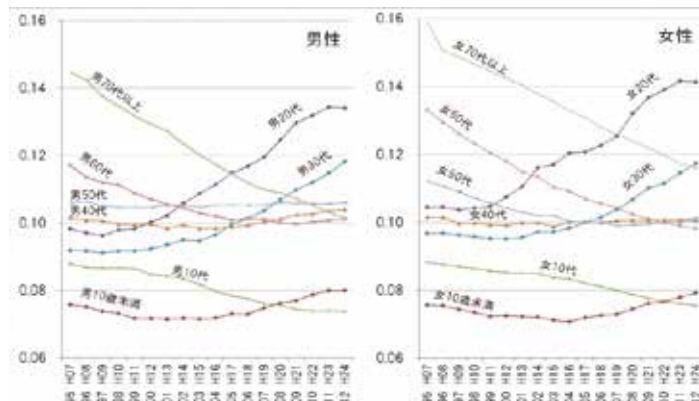
三大都市圏の人口動態を社会動態（転入超過）にみると、東京圏、関西圏に比べ、名古屋圏の転入超過数の変化は緩やかに推移している。



名古屋の都心人口と全市人口に対する都心人口の割合をみると、どちらも1997年を底に増加傾向に転じている。



名古屋の都心人口を、男女別年代別人口の全市人口に対する割合に見ると、年代別に明確な違いがあることがわかる。



都心回帰の誘導や都心居住の推進には、様々な検討が必要であるが、都市のイメージを形成する最も重要なエリアの1つとして、今後の名古屋圏や名古屋都心のあり方の中での検討が必要であると考えます。

研究
テーマ

都市の魅力を高める公園経営
～久屋大通公園に焦点をあてて～

テーマ

戦前の名古屋都市計画公園史について

元名古屋都市センター 調査課 研究主査 安藤 有雄

名古屋都市センター 参事 青木 公彦

1. 栄地区の再生

久屋大通は、広い幅員から「100m道路」と呼ばれ、クスノキ並木の公園にテレビ塔が立つ景観は「名古屋の顔」と言える。しかし、イベントを除いて普段の公園を楽しんでいる人の姿が少なく、散策、休養、観賞等の場としての機能を十分発揮できていない。

栄地区の再生が求められる中、その中心に位置する久屋大通公園をどう生かすのか。利用者志向の新たな視点で公園の可能性を最大限に引き出す「公園経営」について、久屋大通公園に焦点をあて調査研究を行った。

2. 都心の公園に対する市民ニーズ(アンケート結果)

憩いとやすらぎ、美しい景色、子どもの遊びの場としての期待が非常に高い。次にイベントや飲食サービス等にぎわいに関すること、災害時の避難場所としての期待が続いた。

3. 市民ニーズに対する久屋大通公園の現状と課題

規模等が似た札幌市の大通公園と比較した。どちらもイベントが盛んだが、札幌は観光客だけでなく日常利用のリピーターが多い。公園の風景も四季の変化に富んだ札幌に対し、久屋は「芝生地、花木、草花などが少なく季節感に乏しい」「子供が快適に遊べる場所が無い」など、市民ニーズ上位の項目に弱い状況となっている。

	久屋大通公園 (名古屋市)	大通公園 (札幌市)
樹木 (高木)	28種 約1,060本 内9割がクスノキとケヤキ	51種 約940本 落葉広葉樹、花木を多用
芝生	約2,400㎡ (平坦地)	約19,600㎡ (平坦地)
花壇	6か所 (花苗配植型) 7か所 (ワイルドフラワー型)	87か所 (花苗配植型) バラ花壇 32種 1,300株

4. 公園経営による都市の魅力アップ

公園経営に多くの人々が関わり、市民・事業者・行政の協働を原動力にして、久屋大通公園と栄地区の再生が進むことを期待したい。

【公園経営の先進事例】ブライアント・パーク(ニューヨーク)

- ・NPO が市から管理権取得、「女性の多い公園」がテーマ
- ・安全優先、利用者志向、民間の経営的手法の導入

【提案】久屋大通公園における公園経営のあり方

名古屋の誇り(シンボル)にふさわしい生き生きとした公園への再生



- ① 花や緑の美しさ、生命力の実感
- ② 子供たちや人々の笑顔、つながり
- ③ おもてなしと街の活性化
- ④ 防災・減災、安全力の発揮
- ⑤ 公園財源の確保、拡充

本レポートの特色

明治、大正から第二次大戦終了時までの名古屋都市計画公園・緑地の歴史を通史として述べたもの

おもな内容

- ① 明治末から大正初めに名古屋市に「市区改正調査会」が置かれ公園計画も議論されたこと(推定配置計画は下図参照)
- ② 大正15年都市計画決定迄の計画過程の色々な動き、特に後に名古屋市初代公園課長となった愛知県都市計画地方委員会技師狩野力の動きを中心に明らかにした
- ③ 決定後の建築規制、開発規制などの詳細
- ④ 公園実現のための区画整理事業との連動や、大胆な手法などの紹介
- ⑤ 運動公園(後の瑞穂公園)実現の過程
- ⑥ 戦時の色彩を帯びる時代の中で、防空・防災事業として公園整備が大幅に進んだこと。また、追加決定もしたこと
- ⑦ 防空を名目に、緑地も決定され整備事業が行われたこと
- ⑧ 結果、戦前・戦中決定された27公園は夫々どうなったか

加えて

名古屋で最初の公園「浪越(なごや)公園」は、明治10年設置で、面積も2500坪弱(約8000㎡)であったことや、愛知県内では「小牧公園(小牧城周辺)」「岡崎公園(岡崎城周辺)」「稲置公園(犬山城周辺)」の3公園に次ぐ4番目の設置であったことを明らかにした



★が「市区改正調査会」の「市区改正の大体計画」で計画された20公園の推定位置

「名古屋都市計画街路・運河及公園図」(昭和2年内務大臣官房都市計画課より)